

植物工場普及・拡大総合対策事業（農林水産省 21年度補正予算）の概要

植物工場：環境及び生育のモニタリングを基礎として、高度な環境制御を行うことにより、野菜等の周年・計画生産が可能な栽培施設

植物工場の普及・拡大のねらい：施設園芸の更なる高度化と地域経済の活性化

当面の目標（3年後）：生産コストの3割縮減、設置施設数150箇所

事業名 (予算額)	対象	補助対象	補助率	事業の主な狙い	審査・採択
1. モデルハウス型植物工場実証・展示・研修事業 (約37億円)	大学、独法・都道府県の試験研究機関等	植物工場関連技術の実証・展示および研修を実施する拠点施設の整備	定額 (10/10)	整備した拠点施設における大学等の運営・管理の下での 民間企業等のグループ化及び競争展示を通じた生産コスト縮減に向けた技術の実証 研修を通じた植物工場における栽培や経営を担う人材の育成	本省
		技術実証および研修の管理・運営			
2. 植物工場普及拡大支援事業 (約34億円)	農家3戸以上のグループ(農業生産法人、任意の組合等)	植物工場に必要な施設・装置の整備	1/2	【太陽光利用型】 高度な環境制御や養液栽培等により夏の高温対策や収量の安定化等の栽培技術の高度化を図ろうとする施設園芸農家グループ等へのハウス・内部装置の導入	農政局等
		栽培技術取得のための研修参加、装置の調整・改良、GAPの導入等	定額 (10/10)		
3. 植物工場リース支援事業 (約26億円)	法人(民間企業、農業生産法人等)	植物工場に必要な施設、装置のリース方式による導入	リース物件価格の1/2	【完全人工光型】 販売先・販売単価を確保し、確かな栽培技術を持つ民間企業等による遊休工場・倉庫等への植物工場の導入	
		栽培技術取得のための研修参加、装置の調整・改良、GAPの導入等	定額 (10/10)		

本事業の内容の詳細や公募に関する情報は農林水産省のホームページ(http://www.maff.go.jp/j/seisan/engei/plant_factory/)に掲載いたします。

モデルハウス型植物工場実証・展示・研修事業

3年後までに生産コストを3割削減できる植物工場の実用化モデルを確立するため、民間事業者グループによる技術の実証・展示と研修を行う拠点施設を整備する。

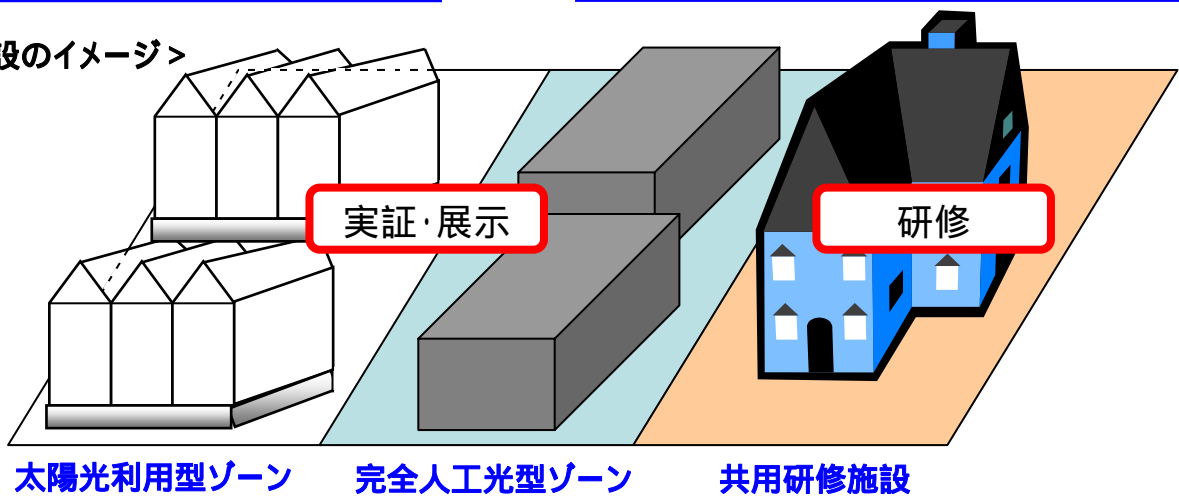
植物工場に係る課題

依然として施設の設置・運営コストが莫大
 モデル施設が存在せず、普及が進んでいない
 植物工場に特化した技術(環境制御技術、制御環境下での栽培技術)を持つ人材が不足

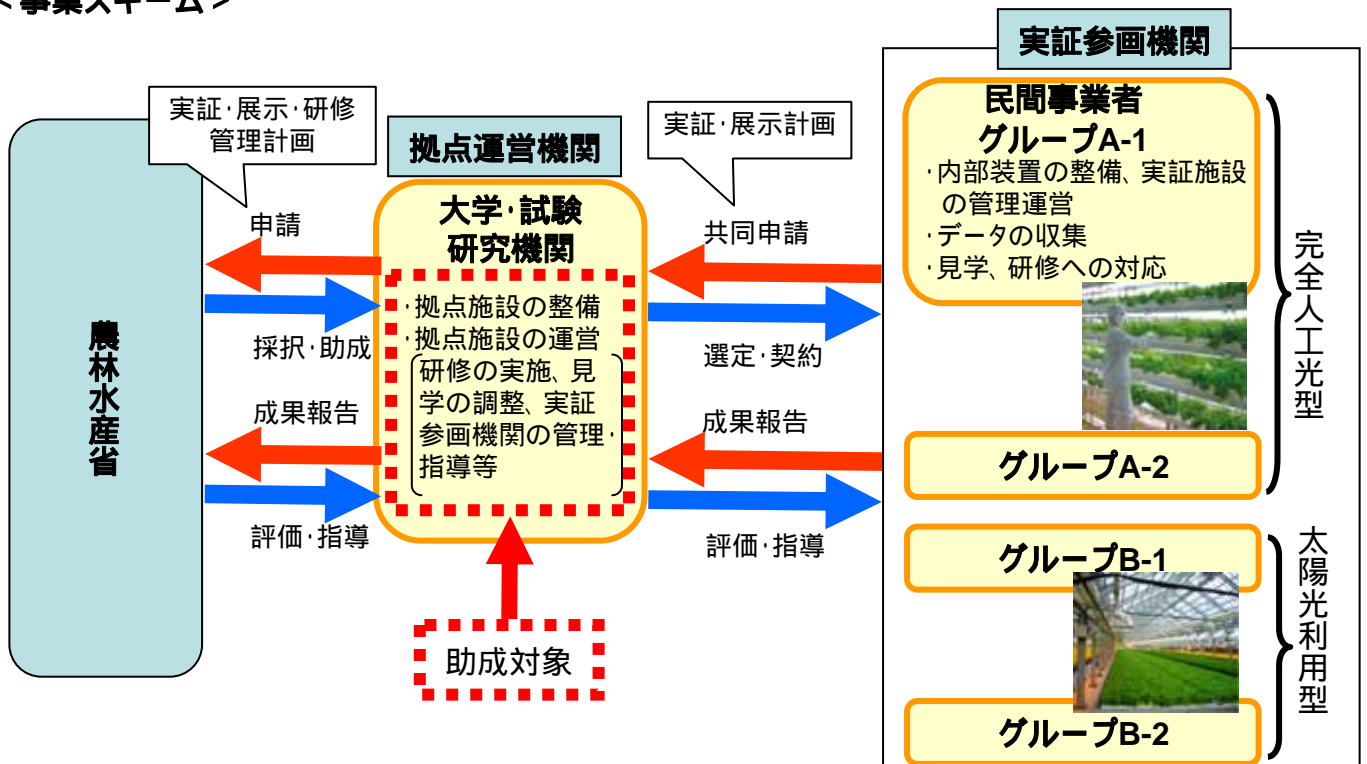
想定される事業の効果

民間事業者等のグループ化及びグループ間の競争的な技術実証・展示による生産コストの削減
 最新技術のモデル展示による植物工場の普及・推進
 研修による技術の普及、人材の育成

< 拠点施設のイメージ >



< 事業スキーム >



植物工場の導入支援

(植物工場普及拡大支援推進事業、植物工場リース支援事業)

植物工場の導入を推進するため、
植物工場及び分析・調製施設の導入
実践的な技術習得、成分分析、GAP導入等の取組(地区推進事業)
を支援する。

